令和６年度岐阜県青少年美術展少年部の選定評

絵画・デザイン	幼・保	楽しかったことを思いのままに表している作品が多かった。子どもたちが描く線には勢いがあり、描きたいものを（どんどん）迷いなく表している姿が目に浮かんだ。この勢いを生み出すもとにあるのは、子どもたちが自ら見たり、聞いたり感じたりする感動体験である。今後も子どもたちが思わず表したくなるような感動体験を大切にしていってほしいと願う。
	小学校 低学年	自分の描きたいものについて、思いを膨らませながらのびのびと表現した作品が多かった。心に残ったことや思いついたことを思うままに表したり、偶然できた形を何かに見立て楽しんだりと、子どもたちの「表してみたい」という思いを引き出す題材の工夫が随所に感じられた。今後も低学年らしい思いを引き出し広げられる作品づくりを期待している。
	小学校 高学年	経験から感じたこと 、物語や写真、色、形から発想を広げて想像したこと、よく見たことなど、心を込めて丁寧に表現した多くの作品に出会えたことを嬉しく感じる。描画材も多様になり、一つの作品に複数の描画材を選んで使うものもあった。版画作品では、版の特徴を生かした作品や多色版画など、表現の幅が広く工夫されていた。
	中学校	どの作品も主題が明確で、その主題を表現するために形や色彩、材料などを工夫している作品が多かった。本年度の傾向として、鮮やかな色彩を用いた作品が多く、中学生の明るく前向きな勢いを感じる。生徒を取り巻く環境が大きく影響しているのだろうと思う。構図を工夫している作品も多く、デジタル機器を駆使して構想を重ねてきたことがよく分かる。
書写	幼・保 小学校 低学年	字を書きはじめて日が浅いと思うが、運筆がなめらかで迷いなく書ききっている作品ばかりであった。平仮名のもつ優しさ、あたたかさがよく伝わる字が多かった。今後は、書く字の意味やその言葉への想いや願いを考えながら、字そのものだけでなく、字間のバランスを意識して書くことを心がけてほしい。
	小学校 高学年	始筆から終筆まで、力強さが見られて気力のみなぎる作品であった。平仮名をかなり小さくし、夢を大きめにしているが、四文字が統一されているのは、多く書き込んだ練習の成果だと思う。名前も鋭い線質で、作品の一部として調和している。たて画のどっしりとした重量感と、さえた終筆は見事であった。
	中学校	始筆と終筆を丁寧に書きながらも、文字から勢いが伝わってくる作品づくりがされていた。一枚の半紙に漢字や平仮名の大きさや配列を考えながら仕上げている作品がたくさんあった。学年が上がるにつれて、「自分らしく表現する」ということにも挑戦し、その楽しさを味わって、長く書道に親しんでいってほしい。